

担当課	学校支援課
-----	-------

会議の名称	令和5年度第1回鴻巣市立中学校の部活動地域移行研究懇話会	
開催日	令和5年12月19日(火)	
開催時間	午後3時30分開会 午後4時40分閉会	
開催場所	鴻巣市役所本庁舎3階 303会議室 ※開催場所変更	
出席者氏名	清水 昭典	鴻巣市スポーツ協会 理事長
	高橋 洋明	鴻巣市スポーツ少年団 本部長
	海老名 寛	NPO法人鴻巣ブレス総合型スポーツクラブ
	松本 安永	鴻響楽連盟
	宮田 忠夫	部活動外部指導者(川里中学校サッカー部)
	吉田 大樹	鴻巣市PTA連合会会長(鴻巣中学校)
	三瓶 美穂	鴻巣市PTA連合会副会長(赤見台中学校)
	藤村 郁夫	鴻巣市立小・中学校長会会長(鴻巣北小学校)
	丸岡 聖典	鴻巣市立小・中学校長会副会長(吹上北中学校)
	二瓶 亮	埼玉県中学校体育連盟鴻巣支部長(吹上中学校)
	福村 晃太	埼玉県中学校体育連盟鴻巣支部理事長(吹上中学校)
	坂巻 麻里	吹奏楽部顧問(赤見台中学校)
欠席者氏名	小川 平祐	部活動外部指導者(鴻巣南中学校吹奏楽部)
事務局職員氏名	鳥沢 保行	鴻巣市教育委員会教育部副部長
	池田 耕司	鴻巣市教育委員会教育部副部長兼学務課長
	若林 朋子	鴻巣市教育委員会教育部学校支援課長
	高橋 和久	鴻巣市教育委員会生涯学習課長
	松本 直樹	鴻巣市教育委員会教育総務課長
	川口 修	鴻巣市教育委員会スポーツ課長
	坂田 義孝	鴻巣市教育委員会教育部学校支援課指導主事
会議次第	1 開会 2 教育長あいさつ 3 自己紹介 4 報告事項 (1) 部活動地域移行に係る国や県の通知等について (2) 部活動地域移行に係るアンケート調査結果について 5 意見交換「部活動地域移行に向けた現状と課題について」 6 諸連絡 ・第2回懇話会日程について 7 閉会	
会議内容	(議題) 1 部活動地域移行に向けた現状と課題について (報告事項など) 1 部活動地域移行に係る国や県の通知等について ・事務局より説明 2 部活動地域移行に係るアンケート調査結果について ・事務局より説明	

(主な意見要旨)

- ・現実的には、予算の問題と人材の問題、それから子どもや保護者の求めているものがそれぞれ違うなどの問題がある。まずは、市としての方向性を示していただきたい。受益者負担の観点も必要だが、誰もが参加しやすい環境をつくるには、やはり行政が予算を組まないといけない。指導者の確保という観点では、各競技の特性を踏まえ、行政が研修という形で関わる必要があるのではないかと考える。さらに、行政で考えなくてはいけない地域移行というのは、競技志向というよりは、スポーツの普及としての活動場所を作る形がよいのではないかと考える。
- ・地域移行に係るアンケート調査では、地域指導者の立場からのアンケートも必要ではないか。地域の指導者の中には、お子さんがチームに在籍しているため協力している場合も多く、チームを卒業した後、そのまま残る人もいれば、それで辞めてしまう人もいる。そのような状況も含め、地域移行に関してどのような考えをもっているのか調査したらどうか。
- ・あくまでも自分のクラブとして中学校の部活動を指導したいという方と、学校の教育活動の一環として捉え、先生方とコミュニケーションを取りながら指導してくれる方がいる。今は、技術サポートとして外部指導者が部活動に入っているが、地域移行となれば、指導者の立ち位置を明確にしないと、先生方は大変になる。
- ・吹奏楽部においても顧問の先生と地域指導者との連携が課題である。市としての方向性が明確になると摩擦が少なく済むのではないかと考える。
- ・他市では、中学生だけのソフトテニススポーツ少年団があり、地域移行の流れを受け、大変盛んに活動している。活動方針の相違によって、話が平行線になってしまう事例も聞いている。
- ・サッカーでは、指導者がライセンスをもって携わっていることが多い。地域移行については、待ったなしの状況の中、地域の少年団に関わってもらえるパターンも考えられる。
- ・地域移行となれば、保護者側が動かなければならない問題も多い。地域クラブの会費によって、子どもたちのやりたい活動ができなくなる状況は避けたい。部活動では、これまで学校の先生方に頼ってきってしまった面もあり、そういった意識を変えていくことも必要である。
- ・教職員のアンケート結果をみると、地域移行してほしいという意見が多い。部活動を欧米型のシステムに切り替えていくには、学校部活動を土台から見直さなくてはならない。どこかで決断し、国や県の補助を受けつつ、動き出しながら方向付けていくのはどうか。
- ・部員が揃わない吹奏楽部もある。この先、学校単位ではなく、中学生も含めた

	<p>地域の吹奏楽団として、一般の部でコンクールに参加する時代がくるのではないかという話もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で、合同部活動がいくつも活動している。種目によっては、鴻巣市内を3から4エリアに分けた形を検討してはどうか。 ・地域によっては、市の施設を活用した地域吹奏楽部の取組がある。ただ、その場合、施設の確保や楽器の運搬に係る負担が大きい。その一方、学校で活動する場合には、教職員不在の中、地域指導者と生徒が学校内で活動することに対するセキュリティ面の課題があるのではないか。 ・中体連の大会にクラブチームが参加しにくい現状がある。本格的に地域移行となれば、大会には学校名で出るのか、それとも地域のクラブチームとして出るのか、保護者の思いも様々である。 ・教職員の中で、引き続き指導したい人は、クラブの指導者として、いわゆる兼職兼業ができるようにするのが一番現実的である。その場合は、学校部活動としての指導ではないので、保険や送迎の問題が出てくる。さらに一番ネックなのは資金の問題である。ボランティアでは、指導者の確保は難しいと思う。 ・拠点ごとの地域クラブになれば、自分の専門競技に関わりやすくなるのではないか。埼玉県では、今回の学総大会と新人戦で約80団体、クラブチームからの参加があったそうである。 <p>(諸連絡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回部活動地域移行研究懇話会は2月中旬に予定
配布資料	<p>資料1 次第・懇話会委員名簿・懇話会の概要</p> <p>資料2 部活動地域移行に係る国や県の通知等</p> <p>資料3 部活動及び地域でのスポーツ・文化的活動についてのアンケート調査結果について</p> <p>資料4 (写) 令和5年度「埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業」に係る地域ミーティングの開催について (依頼)</p>